

令和 元 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200096	
法人名	芙蓉建設株式会社	
事業所名	グループホーム桜森荘	
所在地	山梨県富士吉田市旭1丁目10番3号	
自己評価作成日	令和元年9月29日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和元年10月15日(火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>高齢者の生活を支える事業者として、地域との共存を図りながら介護サービスを提供し、地域福祉に貢献します。高齢者が自らの意思に基づき、自らの能力を最大限に活かして、自立した質の高い生活を送ることができるように支援したい。</p> <p style="text-align: center;">私たちの合言葉 おもしろ、おかしく、元気よく。大きな声で、よく笑い。もっと、今より、健康に。利用者、職員、和気藹々。 そっと、変化に、対応す。嬉し、楽しい、桜森荘。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>富士吉田警察署に隣接した設立2年半の新しい事業所である。富士山を望む市街地にあり環境に恵まれている。玄関から入ると広い空間があり、玄関を中心に左右にユニットがあり、ユニット間を利用者が自由に行き来できたり、各ユニットからはスロープで自由に屋外に出られる環境が整っており、利用者は和やかな雰囲気の中、ゆったりと生活している。また、事業所フロア一には地域住民が利用できるコミュニティカフェが有り、今以上に有効活用できるように検討中である。「私たちの合言葉」として「おもしろそう」の文字を活かした理念を職員間で共有し、利用者が自立した質の高い生活が送れるよう職員全員の協力体制が整っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム 桜森荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価（実践状況）		外部評価	
			ユニット名（ふじざくら）	ユニット名（ふよう）	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1. 理念に基づく価値						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員自らがつくった「私たちの合言葉」、おもしろ、おかしく、元気よく。大きな声で、よく笑い。もっと、今より健康に。利用者、職員、和気あいあい。そっと、変化に、対応す。嬉し、楽しい、桜森荘を共有して実践。内部研修でもリネンの確認を行っている	職員自らがつくった「私たちの合言葉」、おもしろ、おかしく、元気よく。大きな声で、よく笑い。もっと、今より健康に。利用者、職員、和気あいあい。そっと、変化に、対応す。嬉し、楽しい、桜森荘を共有して実践。内部研修でもリネンの確認を行っている	設立当初からの理念「私たちの合言葉」を玄関・各ユニット・職員の名刺の裏に提示し、毎月1回の内部研修（全体会議）で周知徹底している。実践を振り返りながら、自分の親が入居したいと思える対応を日々のケアの中に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	西丸尾自治会第1班に加入。自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加（夏祭り・清掃活動等）。また食材等に関してはできるだけ近所店（肉、魚等）で購入。	西丸尾自治会第1班に加入。自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加（夏祭り・清掃活動等）。また食材等に関してはできるだけ近所店（肉、魚等）で購入。	自治会に加入し回覧板が回って来る。年1回地域の草取り・清掃活動・地域の防災訓練等に参加している。礼大祭には子供神輿の休憩の場となり、楽しい触れ合いができている。また、近所の方が、鈴や野菜を届けてくれたり、地域で食材の買い物をしたり、近隣との関係性がより深まるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方々には、散歩の帰り等コミュニティーカフェを、自由に開放しているが、なかなか来荘して頂けないのが現状である。認知症について相談、支援の方法等助言を行い、行政サービスにつながったケースもある。	近所の方々には、散歩の帰り等コミュニティーカフェを、自由に開放しているが、なかなか来荘して頂けないのが現状である。来訪者には当該施設がどのような仕組みでなされているか、認知症の理解、相談、支援の方法等助言。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	入居者代表、家族会代表、地域代表（自治会等）等の意見を取り上げ実現（子ども神輿の休憩場、自治会イベントへの参加等）に向けてサービス向上に活かしている。ただ地域代表の都合上参加できないことがあり、その都度照会。	入居者代表、家族会代表、地域代表（自治会等）等の意見を取り上げ実現（子ども神輿の休憩場、自治会イベントへの参加等）に向けてサービス向上に活かしている。ただ地域代表の都合上参加できないことがあり、その都度照会。	地域包括支援センター・家族2名・利用者代表・管理者等が出席し意見交換している。利用者からCATVを入れてほしいとの意見があり、共有スペースに設置した。メンバーから出た意見はサービス向上に活かせるように努めている。また、地域代表の参加・理解が得られる様一層の努力を重ねている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等ケアサービスを提供しながら、協力関係を構築。	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も逐一変化している為、このような対応等で状態が回復している等ケアサービスを提供しながら、協力関係を構築。	問い合わせ・情報交換を密に行っている。地域包括支援センターより定期的にコミュニティーカフェ利用の話もあり、有効活用できるような働きかけを行なっている。また、富士吉田市見守りステッカー利用支援事業に協力している。市の後方支援により2か月に1回開催される「フラット」にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解されており、玄関施設等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。（内部研修済み）	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解されており、玄関施設等、言葉の拘束に関してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。（内部研修済み）	身体拘束委員会を立ち上げ、毎月職員会議で利用者の立場に立った声掛けやケアについて皆で話し合い、サービス向上に活かしている。10項目チェック表を使用し、自己評価を行ったリ、認知症ケアの対応研修なども随時行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行い、事業所内での虐待が見逃されることのないように注視予防に努めている。	職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行い、事業所内での虐待が見逃されることのないように注視予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度についての受講の機会はない。1名、包括・社協との連携の下、最期を迎えた時の対応について、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応している。	残念ながら日常生活支援事業や成年後見制度については、そのことのみを中心とした研修、講師等機会を持ったことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している（その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う）。	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している（その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う）。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム 桜森荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置し、意見、要望等取り入れ運営に反映。	ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置し、意見、要望等取り入れ運営に反映。	玄関を入った目につく場所に、家族からの意見箱や職員を対象にした気づき箱を設置し、意見や要望がある時は速やかに対応している。勤務体制や利用者への健康衛生に関する件を改善することができた。また、面会時や家族会で要望等があれば、個々の希望に添った支援に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。	全体会議で出た意見は随時検討し、業務や食材購入に関して対応し改善した。年2回職員アンケートを実施し、目標についての達成度を確認したり、面接も実施している。要望に応じて全車両にドライブレコーダーを設置し、研修会の内容等についても検討する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めている。	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では研修の機会を設けている。	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前年までは同業者と交流する機会を作っていたが、今年は各種の研修の紹介にとどまっておらず、研修・交流参加までには至っていない。	同業者と交流(研修)する機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みを実施。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不眠状態ではあるがさほど困ってはいない方がおり、その原因を24時間シート・夜勤者からの聞き取りなどから検討し、本人の安心を確保するための関係づくりを実施。	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度粗略にせず、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のころより身体的な不調があり、精査の上、看取りの状況の方がいる。往診の都度医師からの説明をして頂いたり、様々な不安・家族関係の相談・死後の対応方法等要望に対応。	帰宅願望があり、落ち着きがなくなったり、盗難妄想も激しくご家族も自宅でも目が離せない状態で、ごちらにもいろいろそのことで迷惑をかけることもある。興奮しない環境づくり家族とも連携して(電話を自由にして安心して頂く等)関係づくりを実施。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入院・パーキンソン発病による状態の変化に伴い、退院時に福祉用具の提供、リハビリができるよう計画を見直しサービスの対応を実施。	歩行訓練のために宅リハビリマッサージの活用を望まれていたので、訪問マッサージ事業者連携してサービスを導入実践。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切り・洗濯もの干し・食器ふき等家事を共に行ってくれる方もいれば、また別の方はカーテンの開閉を役割として行っていたりしている。	踏み込む領域に限度はあるが、身内として親としての関係づくりを実施。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム 桜森荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (ふじざくら)	ユニット名 (ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ADLの低下・栄養状態の悪化する方に、午前のお茶の際にプロテインを飲むことを理解していただき、面会時に外食して、家族との絆を深めながら、食事・栄養摂取への契機となるよう働きかけを行い、数か月かかったがしっかり食べられるようになった。家族も喜んでいる。看取りの方に対しては、可能な限りご本人と家族の時間を大切に過ごして頂いている。	面会をお願いする共に、面会時は外食、外出等家族との絆を深めてもらえるように、関係づくりを実施。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親せきとの手紙のやり取り、ドライブの際に家の田んぼを見に行ったり、46年ぶりに再会した息子さんと面会したり、可能な限り支援している。	馴染みの人や場所との関係は、実際のところ途切れている。	入居前の馴染みの人や場所を把握する努力を行ない、要望があれば外出の際に馴染みの店や自宅に立ち寄るように努めている。また、金銭の自己管理を希望する利用者の支援や家族と旅行や自宅に外泊する方、手紙の交換を行う方もおり、それぞれが継続的に交流できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	比較的優しく穏やかな方が多く、トイレ誘導までしようとするため、都度職員が気にしながら、対応している。支えあう気持ちは大切にしたい。	個々の性格もあるが、行き違い(口論・喧嘩等)などあり、その都度職員が間に入り、孤立しないよう支えあう関係づくりを実施。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになった方のご家族が数か月たって来所し、家の片づけで出た使えそうなものを持って来ていただいた。努めていたわけではないが、他の利用者にも面会したいとの事で、関係性が出来たことに返って驚いたこともある。	施設移転した方については、施設側と関係を持ち、必要に応じて助言等行っている。永眠され契約終了となったご家族とは疎遠。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に会話をする機会も多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。医師からの勧めと本人の要望が異なることもあり、その際には何度か話し合い、すり合わせをしている。	日常的に会話をする機会が多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。困難な場合は、表情などで本人本位に検討。	ほとんどの方が言葉でのコミュニケーションが取れ、職員は一人ひとりの意向を把握している。電話も自由に掛けることができたり、外出の希望や食べたいもの等利用者の要望に出来るだけ応えるように努めている。意思疎通の困難な方は、表情や家族からの情報を全スタッフが共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、今までの生活習慣、環境等、ご本人または家族より、自分史を記入して把握。それ以降も、話の中で聞き取った内容を、職員間で共有していることもある。	生活歴、今までの生活習慣、環境等、自分で応えられる方に関しては本人より、応えられない方には、家族に依頼し自分史をお願いして把握。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化の激しい方にも、出来る限りタイムリーに対応できる様、状態把握している。状況に応じてはオンコール対応している。	1人1人の毎日の過ごし方、近々の心身状態、有する力等状態の経過を見ながら、本人と話しながらその日の暮らし方を決定。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。	入居時のアセスメントで本人・家族・ケアマネジャー等から「どういう暮らしをしたいのか」「どのような希望があるか」を聞き取り暫定プランを作成し、1か月様子を見る。その後6か月ごとに見直す。入院等の変化がある場合は随時支援計画の見直しを行なっている。職員1名で2人の利用者を担当している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別に記録(申し送り、業務日誌、システム情報)に記入し、職員間で情報を共有しながら実践、計画の見直しに実施。	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別に記録(申し送り、業務日誌、システム情報)に記入し、職員間で情報を共有しながら実践、計画の見直しに実施。		

（様式1）

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホーム 桜森荘		〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日常生活支援として、包括・社協との連携の下、お金の管理の状況を報告。最期を迎えた時の対応について、ご本人の要望を聞きながら、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応している。	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組めていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同上。	地域資源ををいろいろ調査しておらず把握できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応して頂いている。	主治医と事業所の関係づくりを構築し、適切な医療を受けられるように支援している(協力病院、かかりつけ医、歯科医等)。	ほとんどの方が、本人が希望する係りつけ医を家族と共に受診している。受診時手紙や口頭で情報を提供し、結果変更があれば家族や医師から連絡がある。他の方は、週1回協力医による訪問診療を受けていて、協力病院・かかりつけ医・歯科医等の適切な受診が行なわれるよう協力体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。	看護師に報告・相談、適切な受診、看護を受けられるように連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。	支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように情報交換、相談に努めており、連携室とも日頃から情報を共有。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせている。	重度化や終末期のあり方について入居時説明し、早い段階から本人・家族と話し合い、当該施設で出来る内容を十分に説明して関係者とチームで支援に取り組む。	入居時に重度化や終末期に関して同意書を取り交わしているが、状況により判断している。体調が思わしくない方も家族や医師との連携により安定している。オンコール体制を取っており、体調変化や対応指示をしっかりと共有し職員間の連携は取れている。看取りに対しても医療と事業所の連携が取れており、職員と共に本人や家族を支える体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。採用時初回研修に研修を行う程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。採用時初回研修に研修を行う程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難手順、避難ルート確立されているが、地域(近所)での協力体制での避難手順、協働については実施訓練は不備。	避難手順、避難ルート確立されているが、地域(近所)での協力体制での避難手順、協働については実施訓練は不備。	年2回、夜間を想定した訓練を定期点検を兼ねて行っている。1回は消防署立ち合いの元で行われている。マニュアルは作成してあるが、富士山の噴火訓練・停電の場合についての話し合いが持たれ発電機の必要性を検討中である。避難ルートは3か所あり、足元灯・誘導灯・スプリンクラーが設置されている。	日頃からの散歩や活動を利用して、職員や利用者が避難誘導を体験できる機会を増やしたり、市に働きかけ、近隣との協力体制がしっかりとれるように努めることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応が継続的に出来るよう内部研修など行っている。しかし、時に慣れ合いの形で声掛け・対応してしまう職員には注意することもある。	1人1人の人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけ対応を実践している。本人が呼んでもらいたい名前と呼ぶことになっているが、ちゃん呼ばわりは絶対にしないことを実施。	自分がされて嫌と思うような声掛けはさけるように「一呼吸おいて」を常に心掛け、プライバシーの確保や本人の気持ちを尊重した声掛けの工夫も行なっている。トイレ誘導・入浴等の介護は利用者の希望に添うようにし、同性介護を心掛けている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム 桜森荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買っていくにいたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。	自己決定を引き出せるような言葉、会話を用いて、思いや要望を表現できるようにしたり、自己決定できる環境を整えながら働きかけを実施。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本当は毎日入浴したい方がいるが、職員対応が出来ずにいる。それ以外ほぼ本人の希望に応じてその方のペースで生活されている。	個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(就寝、起きてほしい方は最大21時就寝であるが、居室内は自由にテレビを見たリラジオを聴いたり起きてもらっている)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪、無精ひげ等身だしなみを大切に。鏡を常に見たい方には、手鏡をそばに置き、その方なりのおしゃれができるように支援している。	頭髪、無精ひげ等身だしなみを常時注視。化粧する方にはお洒落ができるように支援している(化粧品補充、爪の手入れ等)。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検食を兼ねて職員と一緒に摂っている。	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検食を兼ねて職員と一緒に摂っている。	ご飯、味噌汁は事業所で作る。食材は2日に1回外注で届いたものを提供しているが毎週日曜日の昼食は、材料の購入から盛り付け・テーブル拭き・配膳・下膳・後片付け・茶碗を拭く等利用者のできることを職員と一緒にやっている。年2回程外食に出掛けたり、正月・クリスマスには出前を取り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夏場はポカリスエットを起きたら提供。状態に応じ、プロテインを飲んでいただいている人もいれば、コーヒーを飲んでいただいている。	食事量、カロリー、水分量を記録。1日を通しての摂取量に応じた支援。夏場はポカリスエットを起きたら提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリドント、口腔ガーゼ等。	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリドント、口腔ガーゼ等。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9人中2人は自立。1人1人の排泄時間、習慣を把握して声掛け、トイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実施。	1人1人の排泄時間、習慣を把握してトイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実施。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声掛け誘導に活かしている。入院しオムツ対応になったが退院後布パンツ・ライナー使用に変わった方がいる。夜間帯のみオムツ使用している方でもトイレ誘導を行ない、転倒の危険性のある方は移動動作の見守りをする等個別支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食物繊維の摂取の声掛け、軽い運動・整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。	水分・食物繊維の摂取の声掛け、軽い運動・整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。男性スタッフが嫌な方にはできる範囲で女性スタッフが支援。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。男性スタッフが嫌な方にはできる範囲で女性スタッフが支援。	週2回入浴を行なっている。基本、午後の入浴となっているが利用者の希望や状況に合わせた支援を心掛けている。衣服はできるだけ本人に準備してもらっている。入浴剤を使用し楽しんでいる。入浴を拒否される方にはその都度対応し無理強いはない。また、同性介護対応を心掛けている。	

（様式1）

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム 桜森荘**

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価 (実践状況)		外部評価	
			ユニット名 (ふじざくら)	ユニット名 (ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。食事を少し遅めにとっていたりすることもあつた。また夜間のどの湯き等水分を提供。	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。また夜間のどの湯き等水分を提供。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。嚥下の状態に応じ服薬の支援をし、症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。	薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。嚥下の状態に応じ服薬の支援をし、症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たたみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。毎月、イベントを実施。	張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たたみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。毎月、イベントを実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外食、散歩、買い物等、家族と協力して施設内にあまり閉じこもりのないように働きかけ(冬の時期は風邪、積雪時期は外出減少)。	外食、散歩、買い物等、家族と協力して施設内にあまり閉じこもりのないように働きかけ(冬の時期は風邪、積雪時期は外出減少)。	花見や外食などの集団での外出以外に、買い物ついでにファーストフード店に立ち寄りお茶をすることもあつた。日光浴を兼ねてベランダで富士山を眺めたり、敷地内を散歩する利用者もいる。普段行けない様な所にも家族の協力を得ながらできるだけ希望に添うような支援を心掛けている。日々の散歩の中で挨拶を交わす等、地域との交流に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者ではないが、一部入居者には、バックや現金を家族と相談して自己責任で銀行員が訪問して管理して頂いている方もいる。	全入居者ではないが、一部入居者には、バック現金を家族と相談して自己責任で管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、事前に家族の許可を頂いておき電話をしたりしている。携帯電話を持っている方もいる。手紙もやり取りする方も2名いる(返信、年賀状、暑中見舞い等)。	家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、事前に家族の許可を頂いておき電話をしたりしている。手紙も代筆(返信、年賀状、暑中見舞い等)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。1名は、スロープに出て運動をする姿も見られる。	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。	各ユニットからスロープが庭に続き、利用者が自由に入力できるようになっている。また広いデッキに出て新鮮な空気を吸いながら体操を行なっている。各ユニットには大型の加湿器・緑の鉢物・マッサージ器等が置かれ、天窓から自然な光が入り明るく心地よく過ごせる場となっている。玄関横のコミュニティホールには洒落たデザインの椅子やテーブルが配置してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コミュニティカフェの活用。気の合う入居者同士の居室に伺い世間話。	コミュニティカフェの活用。気の合う入居者の居室に伺い世間話。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ・ラジオ、筆筒・鏡台などの家具、アルバム等)。	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。テレビ・ラジオ・こたつの持ち込みを実施。	各居室にはベッド・エアコン・空気清浄機・備え付けの大きな整理棚(引き戸付き)・防火カーテンが備え付けてある。テレビ・仏壇・人形・花・家族写真等、利用者の好みの物が待ち込まれ、大きな整理棚には衣類や生活用品が綺麗に収納されており利用者それぞれが居心地よく過ごせる居室と成っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように設計。発電機がないため、在宅酸素を使用している方の長期停電時のポンベの確保に多少の不安がある(テイジンさんが対応してくれることにはいるが)。	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように設計。		